

富士フィルムの化粧品事業参入に関する考察

CMEO 事業部 田村一雄

富士フィルムのHPによると、同社がヘルスケア化粧品事業に新規参入したのは2006年とある。2008年にはエイジングケアを目的としたASTALIFTシリーズを発売、イメージキャラクターに^{※1}中島みゆきと^{※2}松田聖子を起用し、世に衝撃を与えた。のではないか。少なくとも私には大きな衝撃であった。そして富士フィルムの同事業に対する並々ならぬ決意を感じた。

両者の起用が意味するところは深い。まず、中島みゆきは1952/2/23生まれ(現在なんと59歳!)、松田聖子は私と同学年で1962/3/10生まれの^{※3}もうすぐ49歳。画面ではお二人とも綺麗だが、まさにLIFT UPが必要な年齢ではある。よく出演を引き受けたものだ。ギャラも目が飛び出るほどなのだろう。

また、私としてはこの二人のツーショットをTV等で見たことはこれ以前なかった。どちらかというと、というか実績的にも松田聖子はユーミンの方が親和性が高い。映像そのものが衝撃的である。

さらに、2008年夏頃に始まったCMが今でもこのコンビで続いていることもすごいことだ。富士フィルムは、フジカラープリントでもう何年も樹木希林を起用し続けているという義理堅い企業である。中島みゆきと松田聖子のコンビはまだ当面続くのではないか。

なお、富士フィルムは光学フィルム関連調査での取材先であり、2000年頃より深いお付き合いをさせていただいている。我々CMEO事業部の誰かしらが年に何度も訪問させていただいている。ASTALIFTシリーズが発売されて間もない頃、同社に訪れていた私は、取材後の帰りがけにこの新製品をお土産としていただいた。帰宅しカミサンに渡したところ、数日後の感想は「すごくいい。またもらってきて」とのことであった。ちなみにカミサンも私や松田聖子と同学年である。

同社のヘルスケア化粧品事業への参入はさほど驚くべきことではない。写真フィルムで培ったケミカル技術、コーティング技術、コラーゲンのなんたるかを知り尽くしていること、さらにはあまり注目されていない点かと思われるが、B to Cビジネスも長い経験があった。写真フィルムで出発したとはいえ、化学・素材会社でB to Cビジネスを展開している企業はそう多くはない。すぐに思いつくのはクラレくらいか(クラリーノとかミラバケッソとか)。富士フィルムにしてもクラレにしても長年B to Cビジネスを手掛けているので、他の化学・素材系メーカーと比べてTVCMの洗練度は群を抜いている。

この2社を並べてみるとあることに気付く。LCD偏光板の最重要材料として富士フィルムは世界シェア80%のTACフィルムを、クラレも世界シェア80%(以上とみられる)のPVAフィルムを有している。こじつけっぽいですね。このカテゴリーについては弊社発刊の「高機能フィルム市場の展望と戦略」をごらんください。

話を戻す。富士フィルムの同事業の弱点は、「富士フィルム」という会社名ではないか。一般的な女性は化粧品メーカーとして「富士フィルム」より「資生堂」とか^{※4}「HANSKIN」とか「MISSHA」の方がなじむだろう。いくら技術的バックボーンがあっても、品質レベルが高くても、化粧品は

イメージが重要だし、名は体を現すとも言う。富士フィルムはそのことに気付いていないはずはない。まだ参入して間もないで当面同事業には全社的なバックアップが必要だろうが、早期に独立させて新社名で挑んでくるのではないか。

さて、今回このテーマで書きすすめてこれたのは、このコラムに何度か登場したことのある私の部下の船木知子のおかげである。

本日、朝出社して何時間かしてから業務についての質問を彼女にした。そのときに初めて顔を見たのだが、なんかやけに顔が白い。で、※^{5,6}「なんか今日は顔が白くね？」と尋ねたところ、化粧品の粉の乗りと伸びがいまいちだったので多く塗ってしまったらしい。またいつになくまゆげも描いて口紅も塗ったらしい。この人は普段はほとんど化粧をしないので、コントラストが際立ってしまった。このことをコラムで書こうと思ったのだが、うまく富士フィルムの話に誘導してくれた。いつもながら感謝です。

- ※1 「吉田拓郎&かぐや姫 in つま恋 2006」での中島みゆきは圧巻だった。鳥肌が立った後泣けてきた。誰かが（坂崎幸之助か）「神々しい」と表現していたが、まさにその通り。「永遠の嘘をついてくれ」は中島みゆきの拓郎への渾身のLOVE SONGなのだろう。
- ※2 デビュー当時から松田聖子のファンです。「いちご畑でつかまえて」の「クション」のところとか、「風は秋色」の2番の「泣き虫なのはあなたのせいよ～♪」のところとかオタク的に萌えます。
- ※3 この文章を書いているのは3/1です。
- ※4 知っている人は知っていると思われるが「HANSKIN」「MISSHA」とも韓国メーカー。両社ともBBクリームなどで有名。「HANSKIN」のハンドクリームはさっぱり系としっとり系があって、しっとり系の方が人気のようです。私は飲み屋のおねいちゃんへのおみやげにしています。このおみやげではずれたことがありません。金浦空港で買うと日本円で3個で1,000円くらいです。
- ※5 このくらいならセクハラにはならないだろう。と思いたい。
- ※6 かなり以前に「なんか今日はくちびるが赤くね？」と聞いたこともある。口紅を塗っていた。

執筆者略歴：田村一雄

1989年、㈱矢野経済研究所入社。以来、化学・素材分野の調査研究に従事。現在はデバイスまで調査領域を広げCMEO事業部長としてエレクトロニクス分野の川上から川下領域を統括。知的クラスターへのコンサルティング実績を有する他、台北事務所所長、ソウル支社長を兼務。